

41018

教科書文庫

4
760
41-1910
01304 49377

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

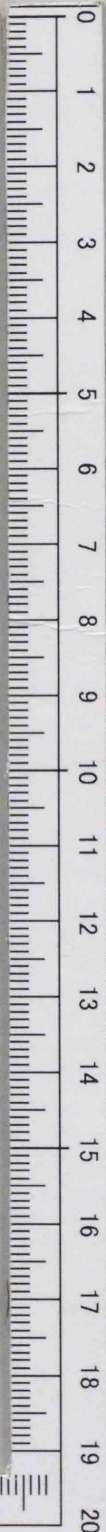
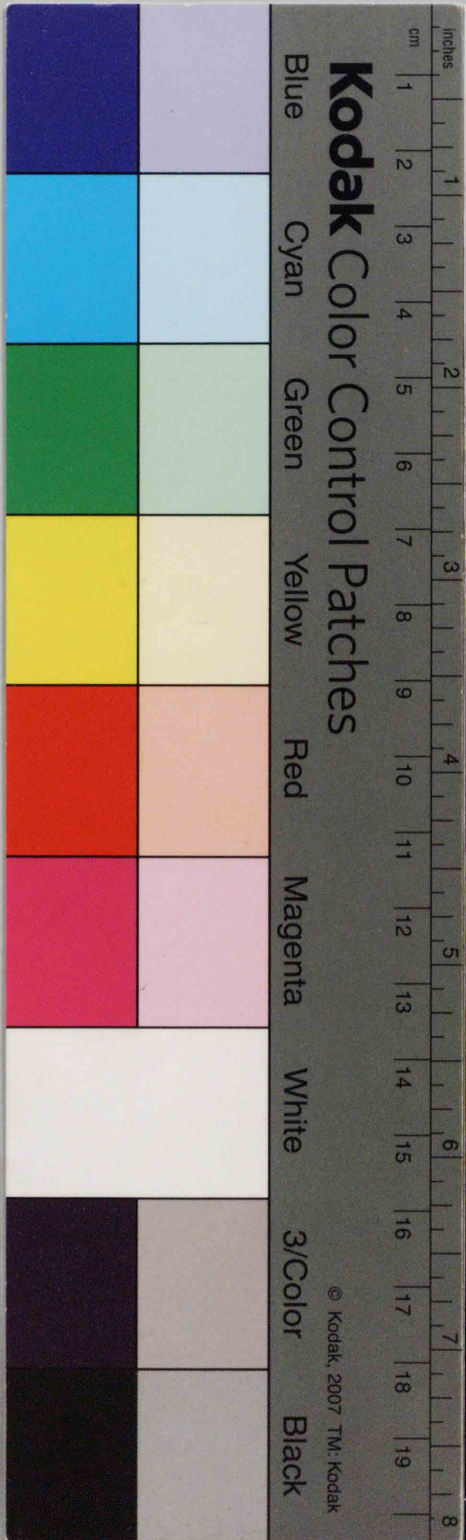


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



綜合科  
中學唱歌



田村洋藏 繪

中學

第二卷

東京音樂書院發行



中央図書館

3巻



広島大学図書

0130449377



教科  
統合

# 中學唱歌

## 第二卷 目次

### 【第一學期】

一 春の夕べ	三
二 織田信長	五
三 郵便車	七
四 故郷	九
五 夏の興	二一
【第二學期】	
六 星の界	三
七 豊太閤	一五
八 漁村	一七

### 【第二學年用】

九 木枯	一九
一〇 野營の月	三
二 海國男兒	三
【第三學期】	
三 友情	三五
三 日本男兒	三七
四 寒月	三九
五 初春	三

○附錄  
第一 樂  
第二 英語  
第三 唱歌  
第四 歌典

目次

No. 1.

春の夕べ

愉快 = *Walter Scott,*  
 春の夕べ *mf*  
 ハロノユフベ ナカニウミニ アカメナガメ オモシロヤ  
 ヒカゲオチテ クロキヤマハ ケムリナビキテ ノドケシ  
 カスミコメテ アナキミヅハ カゼモナギテ シヅケン  
 ヲシホミチテ カハニサセバ ナミハセイロチ コエユク  
 ホシノヒカリ ソラニオホロス ナドルホカゲ オキニハユ  
 エメトアハキ ハルノヒクレテ ミソタスマメツチ ウルハジ

春の夕べ

(一第)

\* 春の夕べ

蘆田恵之助

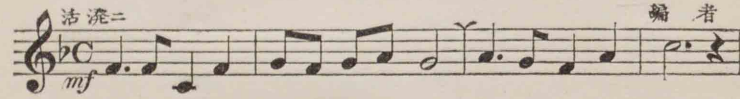
二

春の夕べ陸に海に、 飽かぬ眺めおもしろや。  
 日影おちて黒き山は、 烟なびきてのどけし。  
 霞こめて青き水は、 風もなぎて静けし。  
 潮満ちて川にさせば、 浪は青蘆を越え行く。  
 星の光 空におぼろ、 漁る火影沖にはゆ。  
 夢と淡き、 春の日暮れて、  
 見渡す天地麗はし。』

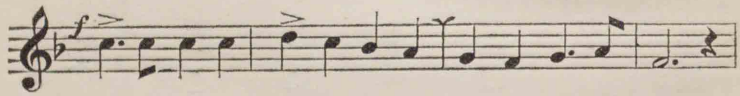
No. 2.

織田信長

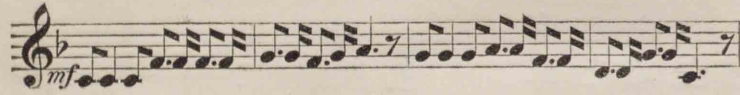
織田信長



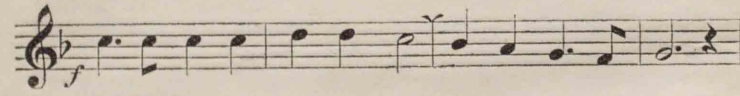
(一)アラシチ ナーカ シア メチツ キ  
(二)ヒガシチ ナーピ ケニシチウ チ



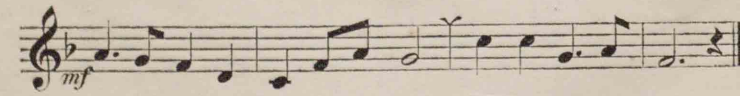
ケツシノ イキホヒ スサマジク  
ミヤコニ ノホル イサマシサ



マイチモンジニ ツキススム テキノホンザン チケハザマ  
イクサスガタニ ヨソホフハ コレゾオンシノ ザンバオリ



タダイツ センニ ヴチカチ テ  
キミノミ ココロ ヤスメタル



アメイハ タカーク アガリケリ  
イサチハ クチーシ チヨマデモ

織田信長

(二第)

織田信長



田邊友三郎

(一) 嵐を犯し雨を突き、 決死の勢凄じく、  
眞一文字に突き進む、

唯一戦に打ち勝ちて、 敵の本陣 桶狭間。  
武名は高く揚りけり。

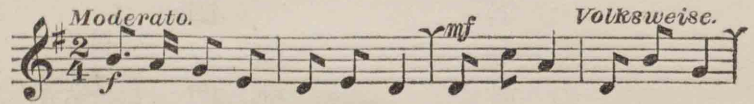
(二) 東を靡け西を討ち、 都に上る勇ましき、  
軍姿に装ふは、

君の御心安めたる、 是ぞ恩賜の陣羽織。  
功績は朽ちじ千代までも。

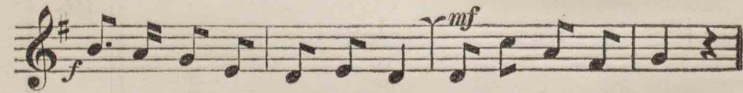
No. 3.

郵便車

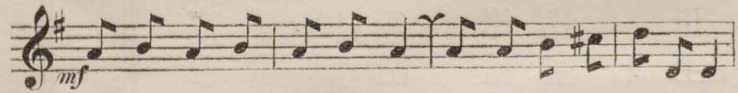
郵便車



(一) チャウテイ シウリ カスミ コメテ  
(二) イチボウ センホ ムギハ ヒイデ



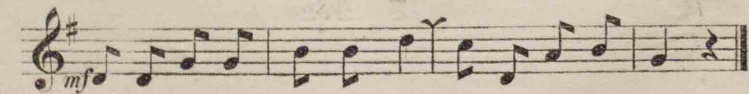
ヤナギニ ミユル ハルノカセ  
シュンソウモユル 中ナカミチ



ヒゴトニ カヨフ ユフビシケルマ  
ユウビシケルマ ヒゴトニヒキテ



ノドケキ ハルナ シラメ ガホニ  
カヨフハ タガコ タレノ タメニ



ヒトスザ ミチチ カケテユク  
ノドケキ ハルナ ヨソニシテ

七

(三第)



郵便車

蘆田惠之助

六

(一) 長堤十里、

霞こめて、

柳に見ゆる春の風。

長閑けき春を

日ごとに通ふ、  
知らぬ顔に、

郵便車。  
一筋道を かけて行く。

(二) 一望千畝、

麥は秀で、

春草もゆる 田舎道。

通ふは誰が子、

郵便車  
誰のために、

長閑けき春を よそにして。

No. 4.

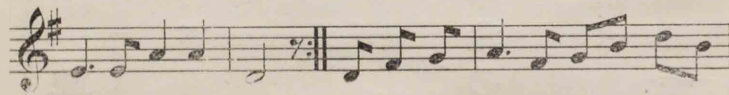
故郷



故郷

(一) アチギリノコーズー エーニセミノ  
フルサトニカヘー ラーシ ナツヤ

(二) シバハシチラター ルーヤ サトガ  
カメキメラヘー ダー テーテ ソガイ



コエタカシ ナニヨリノミーヤ  
スミキタル  
ハノキシベ ソガムネハチード  
ヘゾミユル



ダーハスコヤカノカーラーダ コゾヨリノハーナー  
リーテソガアシハスースーム カドニヨリハーハー



シハ シト ツキモ ツキジ  
ウヘ カヘ リチヤマダ

(四第)

故郷

故郷

八

(一) 梧桐あそぎの梢きりぎりすに、

故郷ふるさとに歸らん、

蟬せみの聲高し。

夏休み來たる。

何よりの土産みやげは、

すこやかからだの躰からだ。

去歲こぞよりの話は、一月も盡つきじ。

(二) 柴橋しばはしを渡るや、

くぬぎ原隔てて、我家いへぞ見ゆる。

我胸は躍りて、わが足は進む。

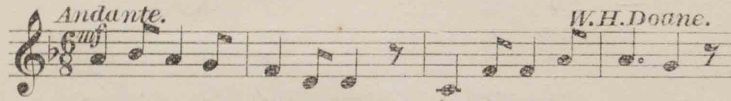
門かどに倚り母上、歸りをや侍たん。

鳥居 枕

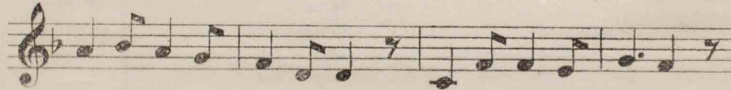
No. 5.

夏の興

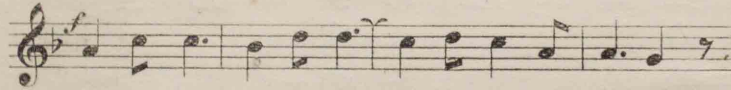
夏の興



(一)ア ナ バ ノ ミ ド リ シ ツ ク ノ オ ト  
(二)ユ フ ダ チ ハ レ ヌ ク サ バ ノ ツ ヌ

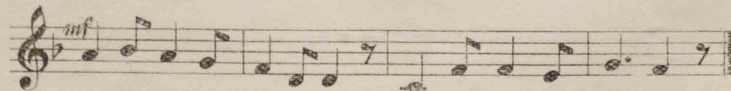


モ ノ ハ ナ ユ レ テ サ ザ ナ ミ タ ツ  
モ ス ソ ニ フ レ テ タ マ ト ソ チ ル



ナ ツ ノ ア シ タ ノ コ ル ヤ ツ キ  
ナ ツ ノ ユ フ ベ ス ズ シ ヤ カ セ

11



ナ ツ カ シ ク キ ナ チ チ コ チ ナ ク  
ミ ダ レ テ ホ タ ル ミ ノ モ ニ ト プ

(五第)

夏の興

夏の興

桑田春風

10

(一) 青葉の緑、 雫の音、

藻の花ゆれて、 漣立つ。

夏のあした、 残るや月。

なつかし水鶏、 遠近啼く。

(二) 夕立霽れぬ、 草葉の露、

裳裾に觸れて、 玉とぞ散る。

夏のゆふべ、 涼しや風。

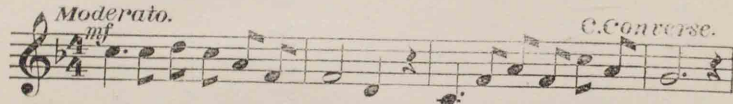
亂れて螢、 水の面に飛ぶ。



No. 6.

星の界

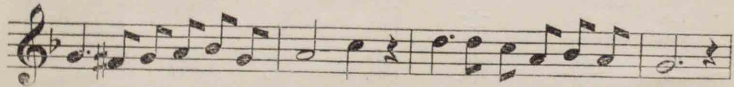
星の界



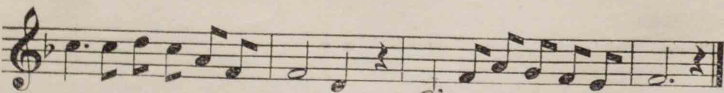
(一) ツキナキミソ ラニ キラメクヒカ ヲ  
(二) クモ、 、 、 、 、 、 ヨコタフヒカ ヲ



アアソノホシ カク キバウノスガ タ  
、 、 ヤウヤウ タル ギンカノナガ レ



ツンチハハテ ナシ ムキウノチチ ニ  
アフギテナガ ムル バンリノアナ タ



イザソノホシ ノヨ キハメモユカ シ  
、 、 サチサセ ヨヤ キウリノフネ ニ

三

(六第)

星の界

星の界

三

杉谷代水

(一) 月なきみ空に、 きらめく光、

嗚呼その星影、 希望のすがた。

人智は果なし、 無窮のをちに、

いざ其星の界、 きはめも行かん。」

(二) 雲なきみ空に、 横たふ光、

あゝ洋々たる、 銀河の流れ。

仰ぎて眺むる、 萬里のあなた、

いざ棹させよや、 窮理の船に。」

No. 7.

豊太閤

*Maestoso.* G. Donizetti.

豊太閤

ヒセンコリ オコリテ ヤガテナチ アゲ

ホクランチバ キハメテ ツビニチナス

カイグロイノ セイバツ コクキトホクフルヒ

イチダイノ イサナシ コライマレニミル

ハカナシヤ ジュラクノ エイグロコソユメ

ミホロビテヨミタルサレ ドアハレマスラチ

豊太閤

(七第)

豊太閤



桑田春風

二四

卑賤より起りて、  
やがて名を揚げ、  
つひに治を統ぶ。

海外の征伐、  
國威遠く振ひ、  
一代の功績、  
古來稀に見る。

果敢なしや聚樂の、  
榮華こそ夢。  
身亡びて世亂る、  
されど、あはれ丈夫。」

No. 8.

漁 村

快活 = *f* *F. D. Schubert.*

漁 村

(一) ウ ナ バ ラ - ハ - ル ケ ク サ  
 (二) ナ ミ カ ゼ - シ - ヅ ケ キ イ

ギ - リ - ハ - レ - テ カ - ヘ ル ア ミ  
 ソ - ノ - ユ - フ - ベ ミ - ル メ カ リ

ノ - フ - ネ イ - ツ ル ツ リ ノ - フ - ネ エ  
 シ - コ - モ カ - ヒ チ ト リ シ - コ - モ イ

モ ノ オ - ホ - ク ハ マ ニ ミ - チ - ヌ  
 マ ツ イ - ソ - ク オ ノ ガ イ - ヘ - ニ

一七

(一) 海原はるけく、  
 狭霧晴れて、  
 かへる網の舟、  
 いづる釣の舟、  
 獲物多く、  
 濱に満ちぬ。

(二) 波風しづけき、  
 磯の夕べ、  
 海松布刈りし子も、  
 貝を取りし子も、  
 今ぞ急ぐ、  
 己が家に。

(八第)



漁 村

大和田建樹

一六

No. 9.

木 枯

清 凝ニ *A. Methfessel.*

木 枯

(一) コ ガ ラ シ フ キ タ ツ ヤ マ ベ ニ モ リ ニ  
 (二) 、 、 、 、 、 、 、 ミ ヤ コ ニ サ ト ニ

キ ノ ハ マ マ ヒ タ ツ ハ ヤ シ ノ ナ カ ニ  
 ニ シ キ ナ ホ コ リ シ モ ミ ダ バ チ リ テ

オ ホ ト リ コ ト リ ノ ナ ク コ エ サ ム ー ク  
 イ ソ ガ ヤ タ ノ モ ニ カ リ ホ ノ ラ ザ ー モ

シ モ ツ キ シ ハ ス ノ ヨ ハ ハ ヤ フ ユ ガ レ  
 、 、 、 、 、 、 、 イ マ 、 、 、 、 、

元

(九第)

木 枯

木 枯

元

杉谷代水

(一) 木枯吹き立つ

木の葉は舞ひ立つ

山邊に森に

林の中に

大鳥ことり小禽こどりの 鳴く聲寒く、

霜月すしも師走しうしの 世は早や冬枯。』

(二) 木枯吹き立つ

錦と誇りし

都の里に

紅葉もみぢば散りて、

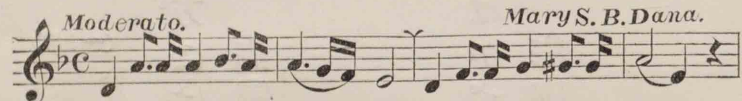
急ぐや田の面に 刈穂のわざも、

霜月すしも師走しうしの 今はや冬枯。』

No. 10.

野營の月

野營の月



(一) ヤエイノカガ リービ ナクラク ナリ テー  
(二) アラシモオト ヤーミ カラスモ ナカ ズー



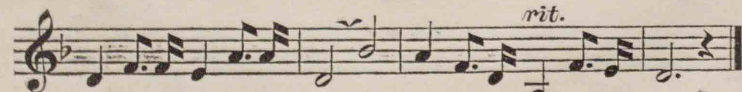
シヅカニフケ ユーーク ヨルハウシミ ッ  
サヤケキツキ カーグ シモトム スビ ヌ



オモフモイサ マーシ キノフノー タカ  
ミクニノタメ ニーハ ヲガミチー ヲス



カ ー ヒ ホ マ レ チ ノ コ シ ー テ タ  
レ ー テ ク サ バ チ シ ト ネ ー ニ ネ



フ レ シ セ ン ユ フ ソ ノ カ ラ イ ツ コ ソ  
ム レ ル 、 、 、 、 、 、 タ マ 、 、 、 、

三

(十第)

野營の月



大和田建樹

野營の月

三

(一)

野營の篝火、

小暗くなりて、

静に更け行く、

夜は丑満

思ふも勇まし、

昨日のたゝかひ、

譽を残して、

斃れし戦友、

その骸いづこぞ。」

(二)

嵐も音やみ、

鳥も鳴かず、

さやけき月影、

霜と結びぬ。

皇國の爲には、

我身を忘れて、

草葉を葦に、

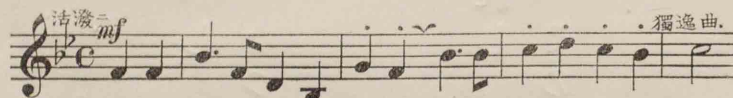
眠れる戦友、

その魂いづこぞ。」

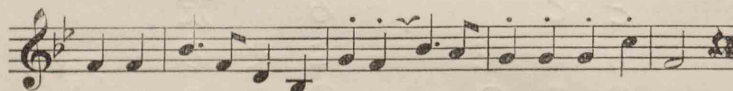
No. 11. )

# 海國男兒

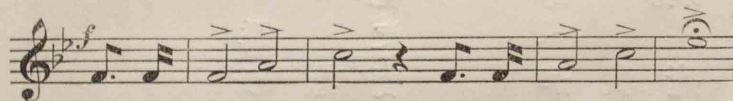
海國男兒



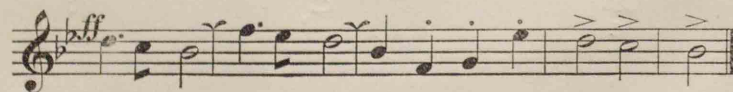
(一) ヨモ ニハウミ アリギヨカイハユタカ  
(二) ミナ トハカズ カズフナデハジザイ



カイコクダンジハフネコソツガヤ  
、 、 、 、 、 、 ナミノコカモメ



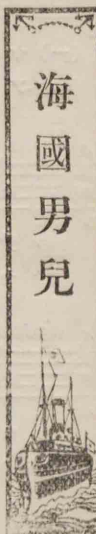
アラナミモナホヘイチ  
、 、 、 、 、 ナレシミチ



ウミノカギリタカラチサグレ  
、 、 、 ソトニワガヨチヒラケ

三

(一十第)



桑田春風

海國男兒

三

(一) 四方には海あり、

海國男兒は、

荒浪も、

海のかぎり、

寶を探れ。

魚介はゆたか、

船こそ我が家、

なほ平地。

(二) 港はかずかず、

海國男兒は、

荒浪も、

船出は自在、

波の子かもめ。

馴れし路、

海の外に、我が世を拓け。』

No. 12.

友 情

Gently. *mf* *PPhillips.*

友 情

(一) ユ カ シ ウ レ シ ト モ ノ コ コ  
 (二) ヲ レ シ ヤ サ シ ハ ナ ノ ニ ホ

ロ ナ ツ カ シ ヤ ソ ノ カ ツ ユ ノ コ ギ  
 ヒ ソ ノ フ カ キ コ コ ロ ツ タ ヘ ガ ホ

ク ヤ ミ タ ル コ ノ ミ ナ  
 ニ イ ハ ネ ド モ ノ イ フ

三

ナ グ サ メ グ サ ニ ト ハ ナ ニ ヨ セ テ  
 ヲ レ ハ ヤ ケ フ ヨ リ ヤ マ ヒ イ エ ヌ

(二十第)

友 情

杉谷代水

友 情

三

(一) ゆかし、嬉し、友のこゝろ、

なつかしや その香、 露の小菊。

病みたるこの身を、 慰め草にと、

花に寄せて。

(二) うれし、やさし、花の匂ひ、

その深きこゝろ、 傳へがほに。

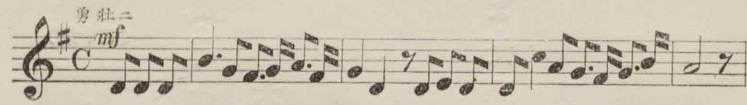
言はねどもいふ、 我れ早けふより、

病<sup>ヤマイ</sup> 癒えぬ。

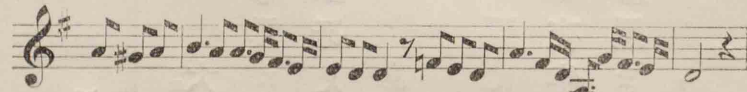
No. 13.

日本男兒

日本男兒



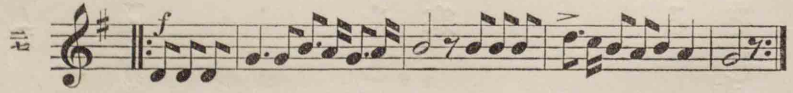
(一) ヤマノ サマウミノスガタ ビナル クニヨロノヒトハ  
(二) チュウノ ミチコウノココロ



カミヨヨリツタヘテイマニ カハリ ナクウゴキナシ  
クモリナシ



アハレタフトーキ クニノモートキ  
ヒトノココロ



コノモ トキイツマデ モ マモレ ニツボンダン シ  
コノコ コロ タモテ

(三十第)

日本男兒

日本男兒

蘆田惠之助

三

(一) 山の様、海の姿、 美なる國よ、日本の本は、  
神代より傳へて今に、 變りなく動きなし。

あはれ尊とき、 國の基、  
この基いつまでも、 守れ、日本男兒。

(二) 忠の道、孝の心、 美なる國よ、我が國は、  
神代より傳へて今に、 變りなく曇りなし。

あはれ尊とき、 人の心、  
この心いつまでも、 保て、日本男兒。

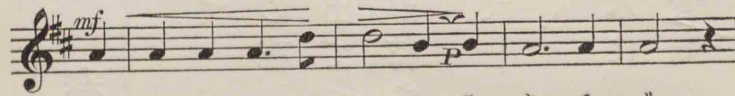


No. 14.

寒 月



寒 月  
(一) ヨーカゼソス サープオホ ダチユケ バ  
(二) ハー ルマダア サーキソ ノニダテ バ



コ ノ ハ モ ク モ モ フ キ チ リ  
フ ケ ユ ク ヨ ハ チ テ ラ シ テ



メモ ハルニソラ サエテヤマ ノハニツキ コホル  
スミ エカトカゲ クロキウメ ガエニツキ カカル



アー ハレヒカリーノハダサムシ  
、 、 、 、 、 、 、 ミニツシム

元

寒 月

(四十第)

\* 寒 月

桑田春風

元

(一) 夜風ぞすさぶ、 大路オホヂを行けば、

木の葉も雲も、 吹き散り。

目も遙に空冴えて、 山の端に月氷る。

あはれ光の、 肌寒し。』

(二) 春まだ浅き、 園に立てば、

更け行く夜半を、 照らして、

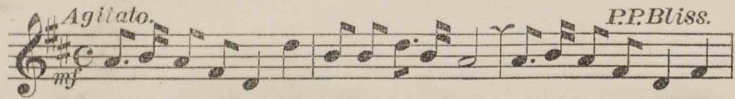
墨繪かと影黒き、 梅が技に月懸る。

あはれ光の、 身にぞしむ。』

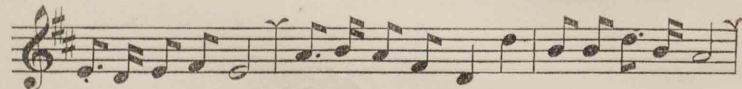
No. 15.

初 春

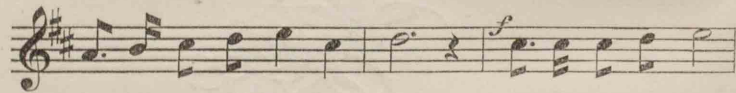
初  
春



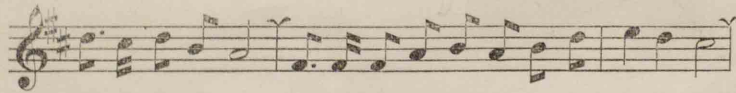
(一) トホキヤマノユキキエテカスムヒカゲ  
(二) イケノコホリウチトケテミヅノオトモ



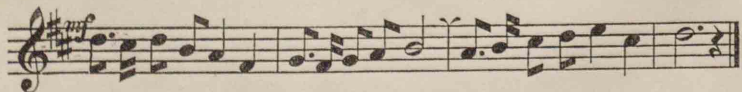
アタタカニツボミトケシウメノハナ  
サムカラズナビクヤナギイトナガク



ミツヨツイツツイザケフハ  
ツツミニタレヌ、、、、



ノニイデテオチクルヒバリチオハン  
ニハノキニキテナクウグヒスマタン



ウレシウレシワガマチシハルコソキヌレ  
タノシタノシハツネキヲセツハイマゾ

三

(五十第)

\* 初 春



大和田建樹

初  
春

三

(一) 遠き山の雪消えて、霞む日影あたゝかに、  
 蒼とけし梅の花、三つ四つ五つ。  
 いざ今日は野に出でて、落ち来る雲雀を逐はん、  
 嬉し嬉し、わが待ちし、春こそ来ぬれ。』

(二) 池の水うち解けて、水の音も寒からず、  
 靡く柳糸長く、堤に垂れぬ。  
 いざ今日は庭の木に、来て鳴く鶯 待たん、  
 楽し樂し、初音聞く、時節は今ぞ。』

附  
一  
錄  
樂  
典  
大  
要



# 樂典大要

〔第一卷の續き〕

## 目次

第八章	嬰・變・本位記號	三
第九章	調號(長音階)	三五
第十章	反復記號	三六
第十一章	變拍子と切分音	四〇
第十二章	強弱記號	四三
第十三章	雜記號	四四
第十四章	速度標語	四六
第十五章	漸次緩急標語	四八
第十六章	發想標語	四九

# 樂典大要

〔第一卷の續き〕

## 第八章 嬰・變・本位記號

五線の其儘の位置には、有鍵樂器(ピアノ)又は「オルガン」等の如きを云ふ。の白鍵音のみを記載し得る約束なり。而して、此五線に、黒鍵音を記載せんには、別に記號を附せざるべからず。茲に於て、

- (1) 嬰記號(Sharp)(♯)は、白鍵音を半音上げ、
- (2) 變記號(Flat)(♭)は、白鍵音を半音下げ、
- (3) 本位記號(Natural)(♮)は、嬰又は變によりて、一旦上下せられたる音を本位に復する、

等の用をなす記號ある所以なり。

嬰・變兩種の記號には、其用法に左の二個の場合あり。

(一)臨時記號としての場合。(二)調子記號としての場合。  
樂曲の中途に表はれたる嬰・變兩記號は、總て臨時記號(Accidental)

〔圖三十第〕



〔圖四十第〕



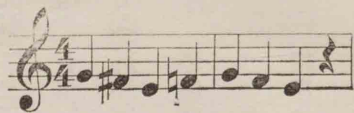
として應用したるものなり。而して、此場合に於ける兩種記號の効力は、其附せられたる音より以下、同小節内の同名なる他の音に及び、次の小節に至りては、自然其効力を失ふものとす。〔第十三圖〕

音部記號の直ぐ次に附記したる嬰・變兩記號は、總て調子記號 (Signature) (略して調號とも云ふ。)として應用したるものなり。而して、此兩種記號の効力は、其音の高低を問はず、樂曲全體に亘りて、同名の音に及ぶものとす。〔四圖〕

本位記號は、常に臨時記號として應用するを本體とす。〔第十五圖甲〕

〔圖五十第〕

(甲)



(乙)



又或は、樂曲の段落に於て、調子記號を變化せしむる場合にも用ふることあり。〔第十五圖乙〕  
本位記號の効力は、嬰・變兩記號の場合と全く同じ。

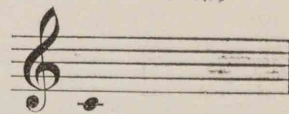
(2)

變音を更に半音下ぐるには、(b)記號を用ふ。之を重變 (Double Flat) と云ふ。學習者は、嬰・變・本位記號の書法を理解し、以て其記載法を練習すべし。

### 第九章 調號〔長音階〕

音部記號の次に、嬰・變記號なき曲節は、常に「は」を第一音(即ち D<sub>0</sub>)となす約束なり。「は」を D<sub>0</sub> と唱ふる曲節は、之を「は調」と云ふ。〔第十六圖〕  
此他何れの音名にても、悉く D<sub>0</sub> と唱へ得べきものとす。されど、「は」

[圖六十第]



を(D<sub>0</sub>)と唱へ始むるものを除きては、何れかの音に於て嬰・變を附せざるべからず。  
 此嬰・變記號は、樂曲中、所要の音に附すべきものなれども、樂曲記載上、煩雜にして不便なるが故に、是等嬰・變記號は、音部記號の直次に集記し、以て、何れの音名を(D<sub>0</sub>)と唱へ始むるかを知らしむ。是等を稱して調號(即ち調子記號)と云ふ。

嬰種のものゝ嬰種調號と云ひ、變種のものゝ變種調號と云ふ。左に是等兩種の調號を表示すべし。〔第十七圖〕

- (1) 嬰種調號の記載法は、最初第五線の「へ」に附し、次に四度下り、次に五度上りて順次に附記するものとす。
- (2) 變種は、最初第三線の「ロ」に附し、それより四度上り、五度下りて順次に附記するものとす。

[圖七十第]

(甲) 嬰種調號表

(嬰數) 一 二 三 四 五 六 七

(調名) ト ニ イ ホ ロ 嬰へ 嬰ハ

(乙) 變種調號表

(變數) 一 二 三 四 五 六 七

(調名) へ 變ロ 變ホ 變イ 變ニ 變ト 變ハ

- (3) 上圖の如く、「嬰へ」「嬰ハ」と稱し、又、「變ロ」「變ホ」等と稱する次第は、其第一音の場所に於て、既に嬰・變を附せられ、半音の上下をなせるが故なり。
- (4) 普通唱歌には、嬰・變とも各々四個を有する調號までを使用す。五個以上は、高尚なる唱歌、又は樂器の練習曲に使用するものとす。
- (5) 嬰種調號の第一音即ち(D<sub>0</sub>)は、右方嬰の上方一度に、變種調號の第一音即ち(D<sub>0</sub>)は、右方變の下方四度にあり。
- (6) 學習者は、各種調號の記載法、及び

其調名を知る方法等の練習を重ねべし。

### 第十章 反復記號

樂曲の一部分、又は其一段落が、全く同一の曲節より成る時は、記譜上の便宜によりて、其同一部分を繰反し、以て記載すべき數小節を省略することあり。此場合に用ふる諸記號を名づけて、反復記號 (Repetition) と云ふ。

普通用ふる反復記號には、左の四種あり。

- (一) 全く同一の場所を反復する方法。(第十八圖甲)
- (二) 樂器の最終部分(又は一段落の最終部分)のみ異りて、他の部分全く同一なる時に反復する方法。(第十八圖乙)
- (三) 樂曲の最終部より樂曲の中途に反し、かつ、其中途に終止を告ぐる時の反復方法。(第十八圖丙)
- (四) 樂曲の最終部より樂曲の最初に反し、かつ、其中途に終止を告ぐる時の反復方法。(第十八圖丁)

【圖 八 十 第】



第十八圖の例に於けるが如く、複縦線に二種あることを知るべし。而して、同一の太さの複縦線は、樂曲の段落を示すものなれば、之を區劃的複縦線とも云へり。〔第一卷第六章參照〕

- (1) (一)及び(二)の例に用ひたる記號は、之を反復記號と云ふ。(一)の方法に

は、此他、猶種々に應用せらるべし。  
 (三)の例に用ひたる  $\text{Al Segno}$  と同義なる略記號にして、「記號にまで反す」との義なり。故に此記號は、必ず二個を要し、 $\text{Al Segno}$  より  $\text{Al Segno}$  に連続すべきものなれば、之を連續記號と云ふ。

- (3) 四の例に用ひたる D.C. は、伊太利語 *Da Capo* の略號にして、「最初に反す」との義なり。故に、此符號は、只一個のみにて足れり。而して、必ず最初に反すべきものなれば、之を反始記號と云ふ。
- (4) 三及び四に於けるが如く、樂曲の中途に終止を告ぐることを示すものに、記號  $\odot$  と文字 Fine との二種あり。何れも同意義に於て使用せらる。而して、Fine は「フイーネ」と讀み、 $\odot$  は又文字 *Fermata* と同義にて、何れも「終結」と云ふ義なり。但し  $\odot$  の記號には、又延長の義あること、次に述ぶるが如し。〔第十三章〕

### 第十一章 變拍子と切分音

樂曲には、一種の興味を加味せんために、一時、拍子上に於て不規則なる音符を構成し、或は又、拍子上の強弱を一時變更せしむることあり。この變體のものに、變拍子と切分音との二種あり。

三個の八分音符の符尾を連合して、其の上、又は下に、數字「3」と括弧を加へて作る。拍子上よりは之を變拍子 (Triple time) と云ひ、音



〔圖 九十 第〕



符上よりは三連音符 (Triple note) と云ふ。〔第十九圖甲〕 而して、此變拍子は、三個の八分音符を、四分音符一個と同一の價に唱奏するものとす。

小節の弱聲部に屬する音符と、強聲部に屬する音符とを、(或は之と反對なるもの) 括弧にて結合したるものあり。かく結合されたる音符を切分音 (Syncopation) と云ふ。〔第十九圖乙〕 此場合には、其二音を分離せずして、結合の音長だけ續けて奏唱するものとす。

切分音は總て強聲とす。而して切分音には、ある小節より他の小節に亘りて作らるるものあり。〔第十九圖乙〕

- (1) 變拍子には、四分音符三個を以て作れるものあり。此場合には、二分音符一



個と同一に唱奏す。

(2) 變拍子の音符の如く、二個以上の八分音符、又は十六分音符の符尾を連合して唱奏することあり。之を連合音符と云ふ。

(3) 切分音の拍子の數へ方は、普通の拍子の場合に準ず。

### 第十二章 強弱記號

拍子に於ける強弱の外、楽曲には、猶その一部分に亘りて強弱を附することあり。此場合に用ふる諸記號を強弱記號と云ふ。

〔略號〕

〔術語〕〔伊語〕

〔意義〕

ff.	f.	mf.	mp.	pp.	p.
(Fortissimo.)	(Forte.)	(Mezzo forte.)	(Mezzo Piano.)	(Pianissimo.)	(Piano.)
.....	.....	.....	.....	.....	.....
最も強く。	強く。	中強に。	中弱に。	最も弱く。	強く。
強記號		中等記號		弱記號	

又は Cresc. (Crescendo.) ..... 漸次に強く。

又は Decresc. (Decrescendo.) ..... 漸次に弱く。

又は Dim. (Diminuendo.) ..... 漸次に弱く。

前二個の場合を合せたるもの。

楽曲中、一聲音に限りて、特に強く、或は特に弱くすることあり。此場合には、左の記號を用ふ。

∨又は∧。 或は  $\text{sf}$  (Sforzando.) 又或は  $\text{acc}$  (Accent.)。

以上の諸記號は、皆同義にして、特に強く唱奏すべきものなり。

fp. これは一音の初めを強く、終りを弱くするもの。

f. p. 此二記號は、時として一音符にも用ふ。

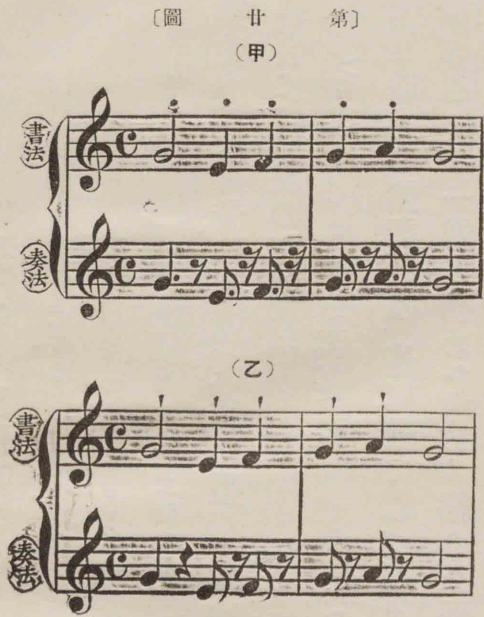
(1) 高尚なる楽曲には、Pを三個、或は  $\text{f}$ を三個列べて用ふることあり。意義は最々弱—最々強なり。

(2) mp.とmf.とは、殆んど同一に唱奏せらるゝものとす。但し、一楽曲中に此二種

記號の表はるる時は、幾分か其心して唱奏すべし。

### 第十三章 雜記號

樂曲の一部分、又は一聲音に限り、此他猶種々の記號を附して、其曲想を明瞭にするものあり。茲に一括して雜記號と名づけぬ。



- (一) 圓點 (Dot)。樂曲の或る一部分の聲音を分離せしめ、鮮明に奏唱すべき時、其音符の上又は下に附する記號なり。  
(第廿圖甲)
- (二) 垂點 (Dash)。更に其結果の著しきものを要する時、用ふる記號なり。

[圖 一 廿 第] (甲)



(第廿圖乙)

- (三) 延長記號 (Pause)。或る音符、又は休符を、其固有の時間より特に延長すべき時、用ふる記號なり。(第廿二圖甲) 而して、其延長の度は、樂曲の性質によりて異なるものとす。
- (四) 連結 (Sim)。度を異にせる音符(二個又は數個)に附する孤線なり。此記號を附せられたる諸音符は、音の切れざる様に唱奏すべきものとす。(第廿一圖乙)

(五) 結合 (Tie)。同じ度なる二個の音符に加へたる孤線なり。此場合には、結合したる音符の合計時間だけ、一音符として唱奏するものとす。(第十九圖乙參照)

- (1) 圓點及び垂點の兩記號は、伊太利語 (Staccato) と同義なるが故に、此兩記號の代りに、伊語「スタッカト」のみを記することあり。

- (2) (ハ)は、從來延聲記號と稱したれど、休符にも附するものなれば、本書に載せたるが如く、改名するを可とす。猶此記號は、樂曲の終止を表はすにも用ふること、第十章に説けるが如し。
- (3) 延長記號の延長の度合は、前述の如く一定せざれども、八分音符・四分音符の場合、其三倍。二分音符の場合其一倍。全音符の場合、其附點だけ延長するを普通の例とす。
- (4) 學習者は、連結及び結合、兩記號の實例を、本書の曲節中に需め、かつ其歌ひ方に習熟すべし。

第十四章 速度標語

樂曲は、其性質によりて、全體の速度を急速に、或は緩徐に奏唱することあり。此場合に用ふる諸記號を速度標語と云ふ。

〔樂語〕〔伊語〕

〔意義〕

Grave. . . . . 極めて緩徐。  
 Lento. . . . .

Largo. . . . . 最も緩徐。  
 Larghetto. . . . .

Adagio. . . . . 稍や緩徐。  
 Andante. . . . .

Andantino. . . . . 中等の速度。  
 Moderato. . . . . 稍や急速。

Allegretto. . . . . 急速。  
 Allegro. . . . . 最も急速。  
 Presto. . . . . 極めて急速。  
 Prestissimo. . . . .

- (1) 緩徐標語の最初よりの五個は、文字の異なるにつれて、其遲速なきにあらねど、(例へば、Larghetto. はLargo より少しく早き速度なるが如く。)實用上には、大家と雖も、これらを區別することは、殆んど出來得ざるものとす。
- (2) Andantino は、Andante より少しく早き速度なり。然るに、同様の語原なる

Allegretto アレグレット Allegro アレグロ より少しく遅きものとす。學習者は、此事情をよく理解し、かつ記憶すべきなり。

第十五章 漸次緩急標語

樂曲の一部分を、漸次緩徐に、又或は漸次急速に、一時、拍子を變更して奏唱することあり。此場合に用ふる諸標語を稱して、漸次緩急標語と云ふ。

〔標語〕(伊語)

〔意義〕

Accel. (Accelerando.)

漸次急速。

String. (Stringendo.)

漸次緩徐。

Rall. (Rallentando.)

漸次緩延。

Rit. (Ritardando.)

漸次緩靜。

Cal. (Calando.)

かくて、一時變更したる速度を、復び原の速度に反す時には、左の

標語を用ふ。

A tempo. . . . . 本來の速度。

第十六章 發想標語

本來の發想標語にして、樂曲全體の意味を表示するものを云ふ。其普通用のものは左の如し。

〔標語〕(伊語)

〔意義〕

Agitato. . . . . 感激しつゝ、(急ぎて)

Animato. . . . . 活氣を以て、

(Assai.) . . . . . 十分に、

Cantabile. . . . . 謠ふが如くに、ゆれつゝ、

Con fuoco. . . . . 燃ゆる思にて、

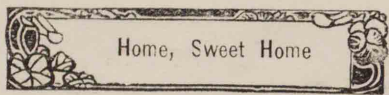
Con Spirito. . . . . 熱心に、精神を込めて、

Con moto. . . . . 感に打たれつゝ、

- Dolce. (略して Dol.) ..... 優美に、  
想(歌曲に應じて)を込めて、
- スプレッシヴォ **Espressivo.** ..... 快活に、
- グラーチオソ **Grazioso.** ..... 圓滑に、(音を分離せざる様に)
- レガト **Legato.** ..... 威嚴を以て莊重に、
- マエストロ **Maestoso.** ..... 注意を込めて、
- マルカト **Marcato.** ..... 過度ならぬ程に、
- (Ma non troppo.) ..... 漸く、段々に、徐々に、
- (Poco a poco.) ..... 遲速なく、時を維持して、
- テント **Tenuto.** (略して ten.) ..... 決活に、愉快に、
- ヴィヴァ **Vivace.** ..... 決活に、愉快に、
- アシタイター **Assai** 〽 **Ma non troppo** 〽 **Poco a poco** 〽 の三種は、他の標語に附加して使用するを常例とす。

樂典大要 (第二卷終)

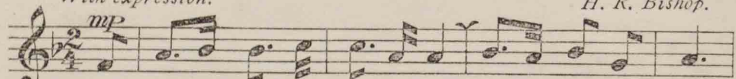
No. 10.



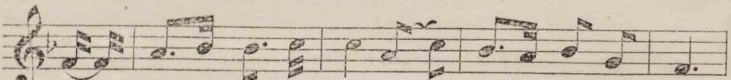
Home, Sweet Home

H. R. Bishop.

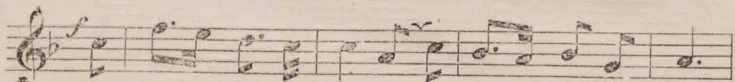
With expression.



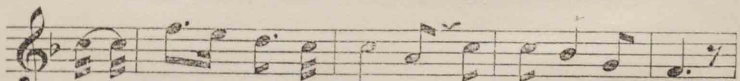
1. Mid pleas - ures and pal - a - ces, tho' we may roam,  
 2. An ex - ile from home, splendor daz - zles in vain,



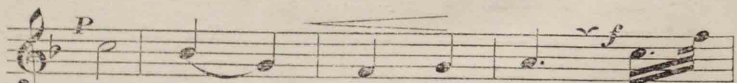
Be it ev - er so hum - ble, there's no place like home!  
 O, give me my low - ly thatch'd cot - tage a - gain;



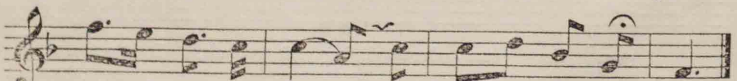
A charm from the skies seems to hal - low us there,  
 The birds sing - ing gai - ly, that come at my - call,



Which, seek thro' the world, is ne'er met with else - where.  
 Give me them with that place of mind, dear - er than all.



Home! home! sweet, sweet home! There's  
 Home! home! " " " "



no place like home! There's no place like home!  
 " " " " " " " "

No. 8.

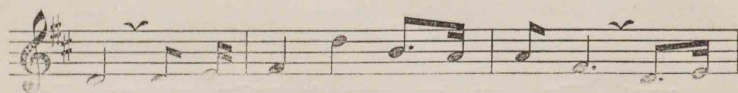
The Last Rose of Summer

*Andantino.*

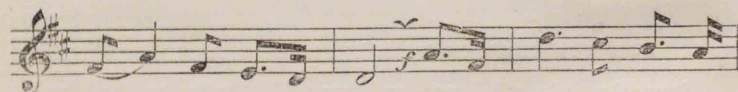
Thomas Moor.



1. 'Tis the last rose of sum-mer, Left bloom - ing a -  
2. I'll not leave thee, thou lone one, To pine on the



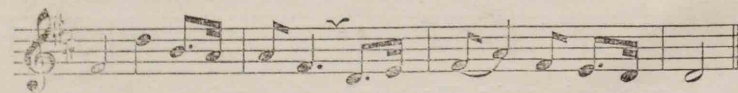
lone; All her love - ly com - pani - ons, Are  
stem, Since the love - ly are sleep - ing, Go



fad - ed and gone; No flow - er of her  
sleep thou with them; Thus kind - ly I



kind-red, No rose - bud is nigh, To re -  
scat - ter, Thy leaves o'er the bed, When thy



flect back her blu - shes, Or give sigh for sigh.  
mates of the gar - den, Lie scent - less and dead.

No. 9.

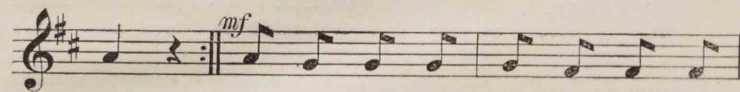
To The Fox

*Lively.*

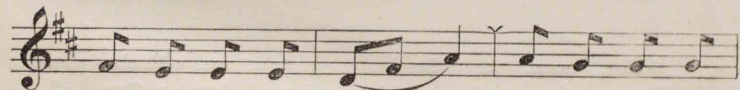
Volkslied.



1. Where's the old gray goose, I won - der? She is, stol'n a -  
2. Some fine day, you sly old sin - ner, When the "hunts-men"  
3. Quite, then, Fox, your thiev - ing hab - it, It will "nev - er"  
" " " "



way, Mas - ter Fox, have you the plun - der?  
" meet, You will find your - self at din - ner,  
" do; Keep to rat, and mouse, and rab - bit;  
"



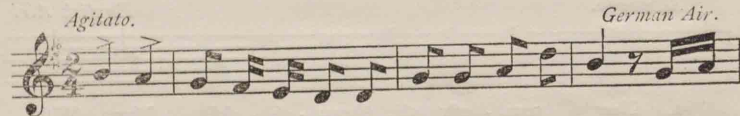
Bring it back, I pray; Mas - ter Fox, have  
Where you can - not eat; You will find your -  
Goose is not for you; Keep to rat, and



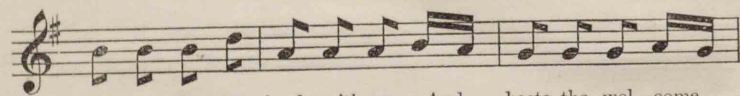
you the plun - der? Bring it back, I pray.  
self at din - ner, Where you can - not eat!  
mouse, and rab - bit; Goose is not for you.

No. 6.

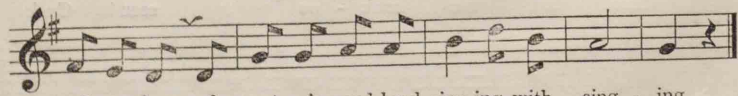
Vacation Song



1. Joy! joy! now we are free, Va - ca - tion time has come; We  
2. Come, come, Let - us a - way, To those we love so dear; At  
3. Wake! wake! up with the dawn, And roam the fields so gay; Our



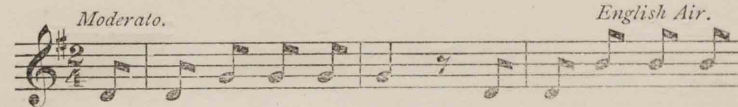
lay a - side our books with care, And haste the wel - come  
home with friends we soon shall be, And part - ed ones we  
hearts are bound - ing with de - light, The sum - mer days are



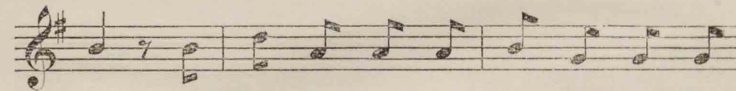
smile to share, of na - ture's wood - land sing - ing with sing - ing.  
long to see, With joy will gath - er neer - us, and cheer - us.  
long and bright, The for - est glades are ring - ing with Sing - ing.

No. 7.

The Mail



1. Tra - ra, the mail has come! Tra - ra, the mail has  
2. Tra - ra, the mail has come! Tra - ra, the mail has



come! The stage has come in view, and soon We'll  
come! Oh, driv - er, quick, make no de - lay; Come,



hear the driv - er's mer - ry tune; With voice so loud and  
ev - ry one out of his way; Tell me, have I a



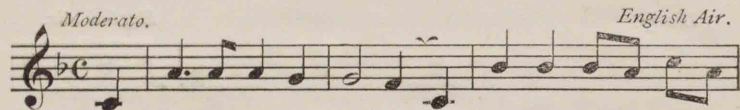
clear, He sings, The mail is here! Come one and all, Both  
let - ter, Or bun - dle, which is bet - ter, Now all come near; The



great and small; The mail, the mail is here!  
mail is here! The mail, the mail is here!

No. 4.

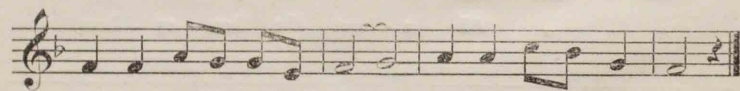
# The Lark



1. The lark, her food to gath - er, From heav - en down - ward  
2. How starts she from the bush - es, And swift - ly mounts a -



flies; Then knows she that a Fa - ther, Doth  
bove, And through the air she rush - es, Far



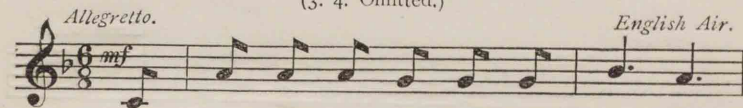
reign a - bove the skies, Doth reign a - bove the skies.  
up o'er hill and grove, Far up o'er hill and grove.

(3. 4. Omitted.)

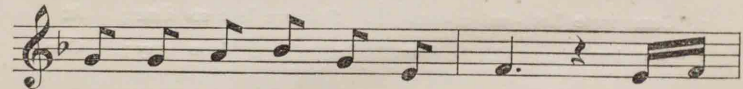
No. 5.

# May Song

(3. 4. Omitted.)



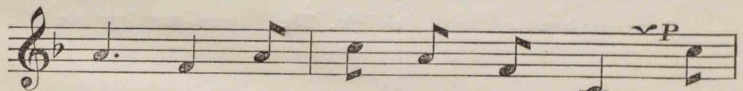
1. Now com - eth the beau - ti - ful May, With  
2. The grove is all fra - grant and green, The



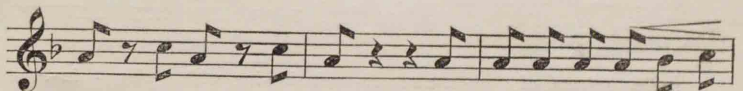
buds and with blos - soms so gray! The  
air is all pure and se - rene; In



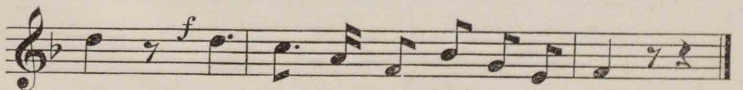
lark is now sing - ing, The stork is up - spring - ing; We  
green past - ures stray - ing, The lamb - kins are play - ing, And



hear, too, the cuck - oo all day! Cuck -  
there, too, the cuck - oo is seen! Cuck -



oo, cuck - oo, cuck - oo! En - joy, then, the beau - ti - ful  
oo, ... cuck - oo, cuck - oo! En - joy, then, the for - ests so



May, She comes with her blos - soms so gay!  
green, For tem - pests may change all the scene!



No. 2.

# The Lambkin

*Moderato.* *English Air.*

1. In the grass - y pla - ces, Where the flower's are  
 2. On the sun - ny past - ure, Mer - ri - ly she  
 3. Where the birds are blink - ing, To the brook she

seen, There the lamb - kin graz - es  
 springs, Feels like us the pleas - ure  
 goes. When she's done her drink - ing,

On the ten - der green. La la la la la la la la  
 Sun - ny Spring - time brings. La la la la la la la la  
 Then she seeks re - pose. La la la la la la la la

la la, La la la la la la la  
 " " " " " " " "  
 " " " " " " " "

(4. 5. Omitted.)

No. 3.

# Little Brother

*Lively.* *English Air.*

1. Lit - tle brother, dar - ling boy, You are ver - y dear to me;  
 2. " " " " " " " " " " " "

I am hap - py full of joy, When your smil - ing  
 " " " " " " " " " " " "

face I see. How I wish that you could speak,  
 " " " All a - bout the hon - ey - bees,

And could know the words I say; Pret - ty stor - ies  
 Fly - ing past us in the sun; Birds that sing

I would seek, To a - muse you ev - 'ry day.  
 among the trees; Lambs that in the meadow run.

(3. 4. Omitted.)

# Contents.

## Part II. Unison.

1. Spring Song .....	3
2. The Lambkin .....	4
3. Little Brother .....	5
4. The Lark .....	6
5. May Song .....	7
6. Vacation Song .....	8
7. The Mail .....	9
8. The Last Rose of Summer .....	10
9. To the Fox .....	11
10. Home, Sweet Home .....	12

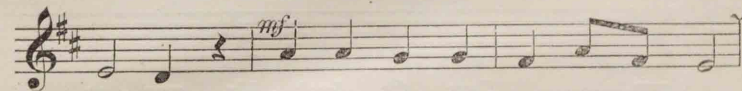


No. 1.

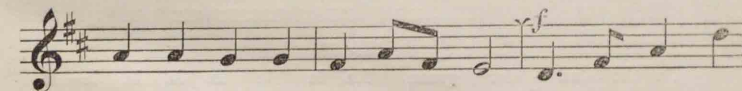
## Spring Song



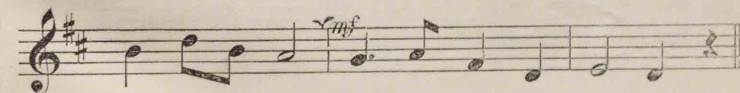
1. All the birds are come a - gain, Come a - gain to  
2. See how gai - ly one and all To and fro are



meet us! And a joy - ous song they raise,  
Spring-ing! As their chant - ing meets mine ear,



Chirp - ing, trill - ing mer - ry lays; Pleas - ant Spring-time's  
Voi - ces sweet I seem to hear, Wish - ing thee a



hap - py days, Now re - turn to great us.  
hap - py year, Bless - ings with it bring - ing.

(3. Omitted.)

APPENDIX No. 2.

English Songs  
WITH  
MUSIC

明治四十三年四月廿一日印刷  
明治四十三年四月廿五日發行

定價  
壹之卷金參拾五錢郵稅四錢  
二之卷金參拾五錢郵稅四錢  
三之卷金參拾五錢郵稅四錢

編者  
東京市牛込區筑土八幡町三十一番地  
田村 虎藏

發行者  
東京市神田區美土代町二丁目一番地  
安井 清

印刷者  
東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地  
青木 弘

印刷所  
株式會社 秀英舍第一工場

發行所  
東京市神田區美土代町二丁目一番地  
東京音樂書院

東京音樂書院發行書目郵税金二錢添御申越次第送呈ス

電話本局二千十三番電信時號〇卜

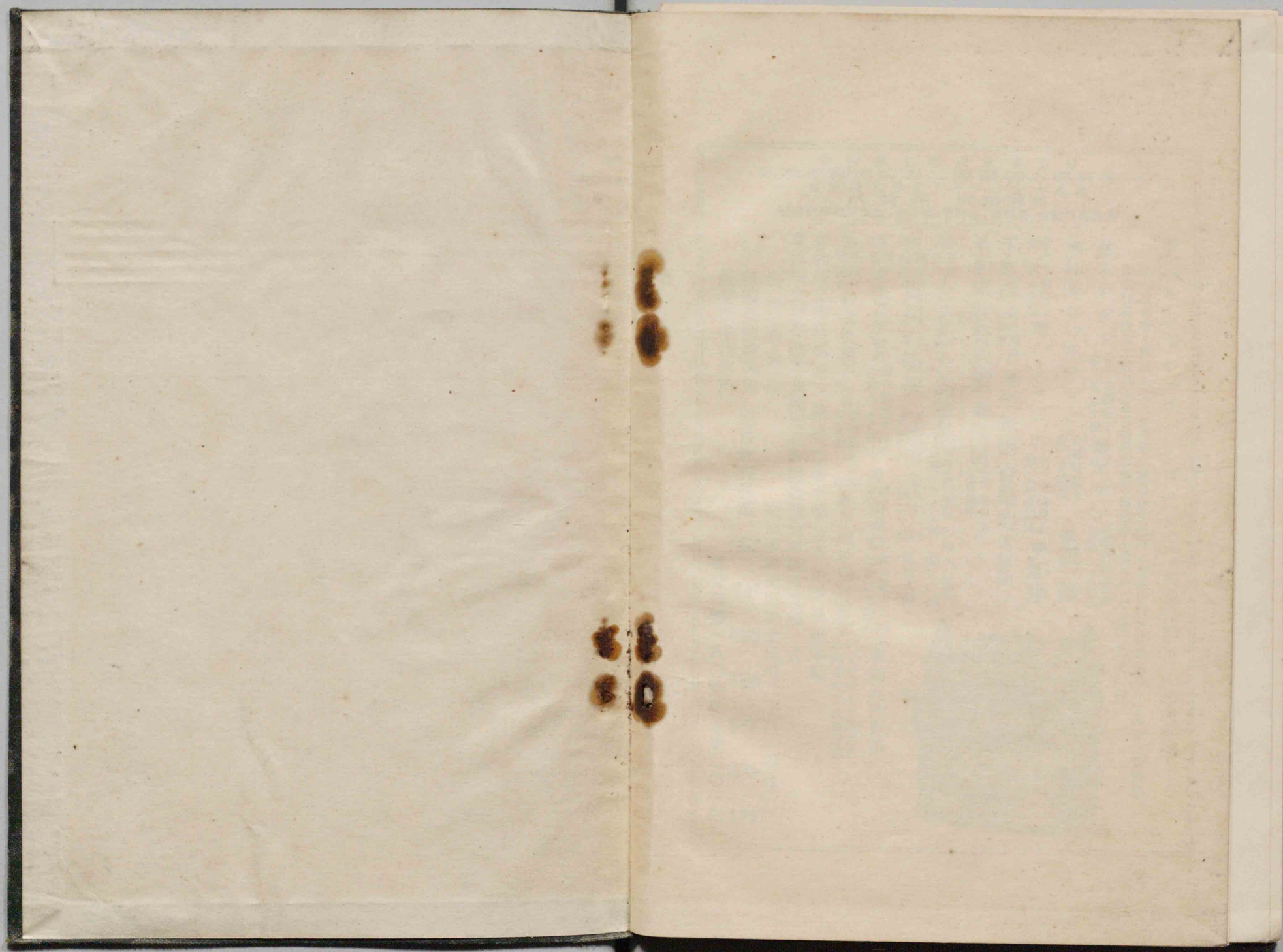
1912.7.17

不許複製

禁 勝 寫







広島大学図書

0130449377

